

岐阜ファミリーパーク 再整備基本計画

概要版

2023年3月



岐阜市

1 基本コンセプト



みんなの声がこだまする公園

～遊ぼう・学ぼう・スポーツしよう！～

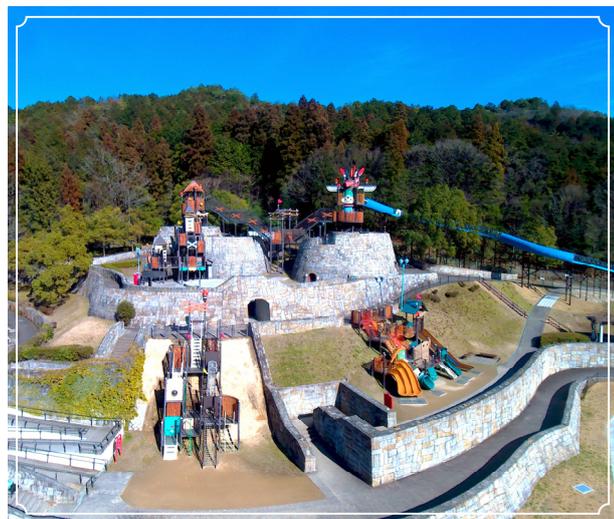
『個性と魅力にあふれ、おもてなしを提供する公園』の実現に向け、「こどもゾーン」「スポレクゾーン」「森林ゾーン」が有する個性が、大きな魅力と相乗効果を創出し、多くの皆様が憩い、楽しめる公園へ再編します。

2 岐阜ファミリーパーク

本園は、1981年度に開園した本市を代表する総合公園であり、豊かな自然に囲まれた空間の中で四季の移り変わりを楽しみながら、一年を通じて多様な世代の方が楽しむことができる公園です。

その一方で、開園から40年以上が経過し、社会情勢の変化や老朽化対策の対応をはじめ、災害時における防災拠点としての機能向上など、本園に求められる役割は大きく変化しています。これらの状況に柔軟に対応し、魅力ある公園を実現するため、2011年度に再整備基本計画を策定し、2019年度には「こどもゾーン」の再整備が完了したところです。

このように再整備を進めている中、再整備基本計画の策定から10年以上の期間が経過し、法令改正や利用者ニーズの変化に対応するため、再整備基本計画の改定を行いました。



こどもゾーン (2019(令和元)年度 再整備完了)

3 再整備基本計画の基本方針

基本方針

1

豊かな自然環境の中で『遊び』『学び』『活動』ができる
“魅力創出”と“新たな発見”

基本方針

2

緑に包まれた広大な空間の中で『憩い』『うろおい』『過ごす』ことができる
“おもてなし”

基本方針

3

多様なニーズに対応した空間の中で『集い』『にぎわい』『つながる』
誰もが“楽しめる”公園

4 再整備基本計画の目標

再整備基本計画の目標は、再整備完了後の来園者数“70万人”を目指します。

目 標	現況値 (令和元年度)	目標値 (再整備完了後)
来園者数	60万人	70万人

注：現況値は、新型コロナウイルス感染症蔓延前の令和元年度の利用者数とします。

5 再整備基本計画策定の経緯

1981年度

岐阜ファミリーパーク 開園

2011年度

再整備基本計画 策定

2014年度

都市計画決定の変更(区域拡張)

2015年度

■第二次国土形成計画 閣議決定

→グリーンインフラの取組

■持続可能な開発のための2030アジェンダ

→持続可能な開発目標 (SDGs)

2016年度

■岐阜市立地適正化計画 策定

→コンパクト・プラス・ネットワーク

2017年度

■都市公園法, 都市緑地法 改正

2021年度

■岐阜市みどりの基本計画 改定

関係法令等の改正

2022年度

再整備基本計画 改定

6 再整備基本計画の全体概要図



注：全体概要図はイメージであり、各施設のレイアウト等は変更となる場合があります。

7. ゾーン別計画概要



岐阜ファミリーパーク再整備事業のイメージ図

スポレクゾーン

広大な緑の中で

“スポーツ”や“野外活動”を通じた交流空間の創出

- 運動施設等の機能充実及び魅力向上と老朽施設の更新
- 人のつながりと交流を促進する休養施設や便益施設の更新と充実
- 多様な世代が活動する拠点施設の整備



スポーツエリア（総合競技場のイメージ図）

スポーツエリア

運動施設の拡充・更新を推進し、多様な世代が活動できる施設整備を行います。スポーツエリアの拠点となるビジターセンターの整備をはじめ、様々なスポーツが楽しめる施設や防災拠点としての機能充実のほか、便益施設や休養施設など、誰もが使いやすい施設整備を行います。

主な再整備内容

- ・ 運動施設の拡充・魅力向上
- ・ 拠点施設の整備
- ・ 休養・便益施設等の整備
- ・ 防災施設の整備
- ・ 施設をつなぐサイン整備
- ・ 魅力あるエントランス計画



スポーツエリア（テニスコートのイメージ図）

レクリエーションエリア

遊戯施設の魅力向上や親水空間・体験学習施設の活用、多様化する利用者ニーズに対応した公園施設の機能再編等を主とした再整備を行います。広大な芝生広場を拠点とし、人々の交流を促進する魅力あふれる施設整備を行います。

主な再整備内容

- ・ 遊戯施設の魅力向上
- ・ 親水空間等の活用
- ・ 公園施設の機能再編
- ・ 休養・便益施設等の整備
- ・ 老朽施設の更新



レクリエーションエリア（ミワクル広場）



こどもゾーン

豊かな自然の中で “あそび”を通じた子どもの健全育成と学びの場の創出

- 遊戯施設を主とした公園施設の魅力向上と老朽施設の更新
- 人のつながりと交流を促進する休養施設や便益施設の更新と充実
- 人の多様性を尊重し、誰もが使いやすい公園環境の創出

こどもゾーンは、2019(令和元)年度の長大すべり台の完成により、大規模な再整備が完了しました。今後は、一層の魅力向上に向け、老朽施設の更新や効率的な管理・運営が主となります。年間40万人を超える方が来園されるこどもゾーンは、東海環状自動車道岐阜三輪SICの開通により、今後、さらなる利用者数の増加が期待できます。駐車場の機能再編や多様な世代の交流を促進する施設整備を行います。

主な再整備内容

- ・ 遊戯施設の魅力向上
- ・ 駐車場の機能再編
- ・ 休養・便益施設等の整備
- ・ 施設をつなぐサイン整備
- ・ 魅力あるエントランス計画
- ・ 歩きやすい園路等の整備
- ・ 老朽施設の更新
- ・ 効率的な管理・運営計画



こどもゾーン (ジェロニモ砦)



こどもゾーン (ポート)



森林ゾーン

四季折々の変化を楽しめる山々のもと 自然の豊かさ、大切さを学び、活動拠点となる場の創出

- 散策路を主とした公園施設の魅力向上と老朽施設の更新
- 人のつながりと交流を促進する展望施設や休養施設等の充実
- 多様な世代が自然とふれあい、楽しめる公園環境の創出

自然の大切さを学び、活動拠点となる、散策路、展望施設、休養施設、安全管理施設等を主とした再整備を行います。また、散策路の再整備に合わせ、適正な樹木管理や更新、豊かな自然環境を眺望できる展望施設の整備など、自然とふれあい、楽しめる施設整備を行います。

主な再整備内容

- ・ 散策路の改修・整備
- ・ 安全管理施設の整備
- ・ 展望施設の整備
- ・ 休養施設の整備
- ・ 適正な樹木管理・更新



森林ゾーン (体育館東)



森林ゾーン (こどもゾーン北)

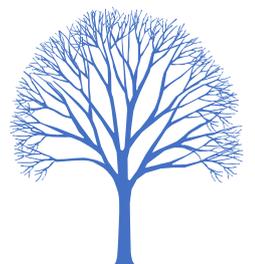


里山ふれあいゾーン

多様な世代が自然の大切さを学び、 活動拠点となる場の創出

- 地形を活かした里山空間の整備
- 自然とふれあい、親しみ、学ぶ場の創出
- 多様な世代が集い、活動をする体験施設の整備

他のゾーンで行う再整備事業の進捗状況を見据え、自然と地形を活かし、植生や生態系に配慮した里山空間の整備を行います。



8 その他の計画概要

項目	整備方針
駐車場計画 	園内各所の駐車場を、公園西側（主要地方道北野乙狩線側）の「こどもゾーン」と「スポレクゾーン」に集約します。混雑時においても円滑に駐車場に流入し、沿道への渋滞緩和に配慮するとともに、歩行者動線と車両動線を分離することで、安全・安心に利用できる公園づくりを行います。
動線計画 	本園への主要交通手段は車であり、駐車場から各施設へ円滑に移動できることが重要となります。「こどもゾーン」と「スポレクゾーン」のゾーン間や各ゾーン内における移動動線など、利用者が快適に移動できる動線づくりを行います。
サイン計画 	サイン計画は、誰もが「見やすい」「分かりやすい」を基本方針とし、周辺景観との調和やデザインの統一化などに配慮した計画を行います。また、動線計画に合わせ、利用者が快適に目的地まで到達できるよう、拠点施設や主要動線に施設案内や誘導案内等を整備します。
ユニバーサルデザイン 	本園は、子どもの遊び場や様々な活動ができるスポーツ施設、さらには災害時に防災拠点となるなど、多様な機能を有しています。再整備事業では、誰もが快適に利用できるよう「認めあい、思いあい、支えあう 誰もが暮らしやすく過ごしやすいまち・ぎふ」を目指し、誰もが共存し、楽しめる公園づくりを行います。
景観計画 	本園は、豊かな自然の中で、四季の移り変わりを楽しみながら、様々な活動ができる貴重な空間です。本園が有する魅力を活かし、各施設との相乗効果により一層魅力が高まるよう、周辺環境や景観と調和した公園づくりを行います。
防災機能の強化 	本園は、広域防災拠点施設や指定緊急避難場所に指定されており、災害時における防災拠点施設として位置付けられています。防災施設の機能強化や避難場所、救助活動拠点となる公園づくりを行います。

9 管理・運営方針

新たな運営ノウハウの活用による 岐阜ファミリーパークの“魅力創出”

一層の公園の魅力向上に向け、民間事業者やNPOなどの各種団体、地域団体との連携や協働、さらには、効果的な維持管理を推進するなど、民間との連携手法を検討しながら、維持管理や運営計画の検討をします。



管理棟（こどもゾーン）

PPP/PFI手法の導入

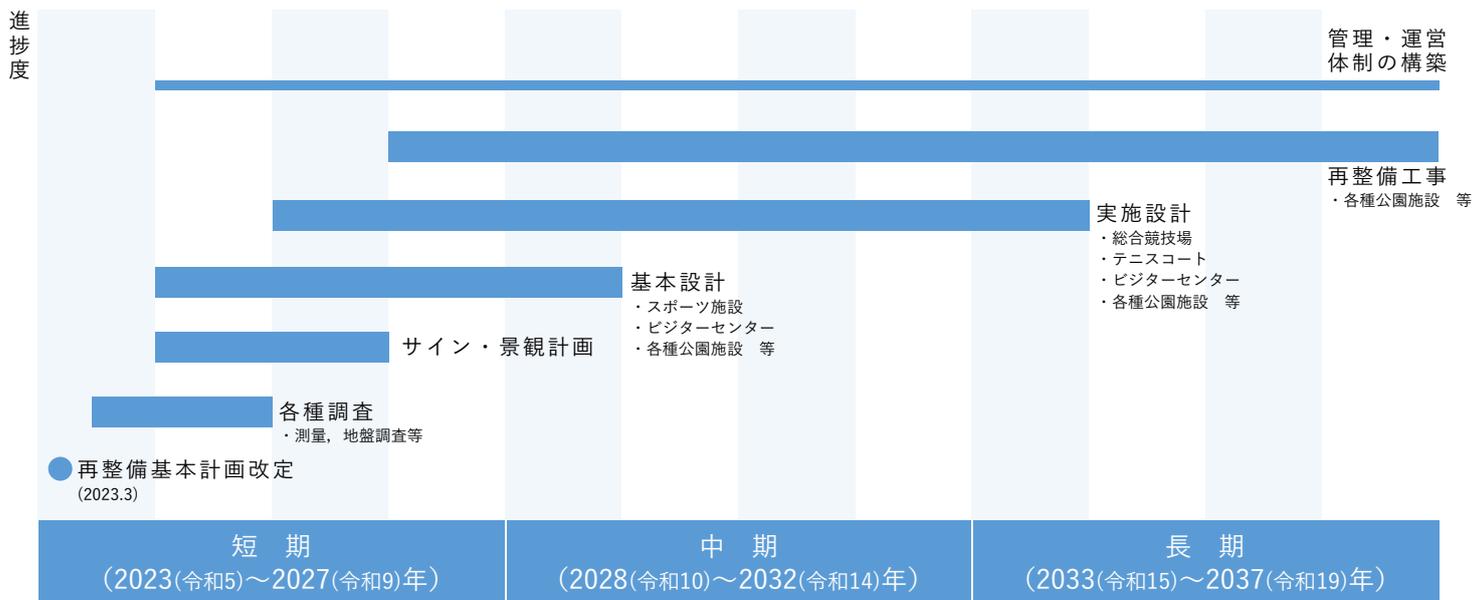
PPP(Public Private Partnership)とは、公共サービスの提供において民間が参画する方法を幅広く捉えた概念で、民間の資金やノウハウを活用し、公共施設等の整備等の効率化や公共サービスの水準の向上を目指す手法です。

本園においてもPPP手法を積極的に導入し、民間事業者が有する技術能力を活用することにより、効率的かつ効果的な公園整備と管理・運営体制の構築を検討します。

主要なPPP手法

項目	整備方針
PFI方式	公共施設の建設、維持管理、運営等を民間活力を活用して行う方式
指定管理者制度	施設の管理・運営を公が指定する法人が代行する方式
包括的民間委託	管理運営業務において一連の業務を民間企業に委ねる方式

10 再整備ロードマップ

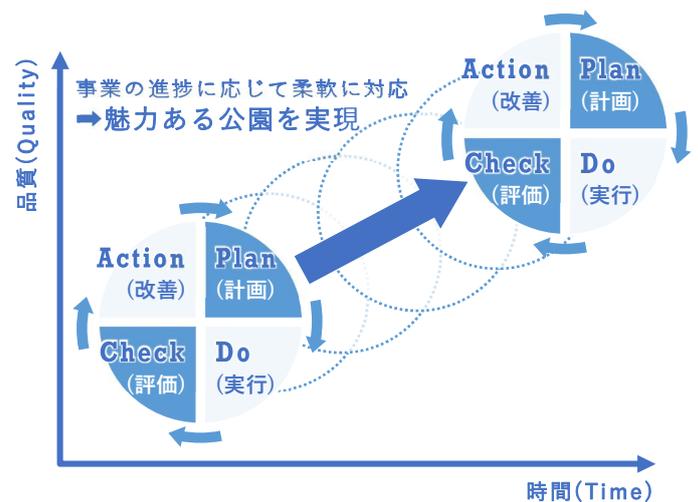


事業期間は短期から長期計画までの概ね15年を想定し、事業の進捗状況に応じて柔軟な対応を行うなど、早期事業効果の発現に向け、再整備に取り組んでいきます。

11 再整備計画の進捗管理

再整備基本計画を推進していくために、Plan(計画)、Do(実行)、Check(点検)、Action(改善)の4サイクルで計画を推進します。再整備は、各種調査から始まり、造成工事などの基盤整備から全体施設計画、各施設の基本・実施設計、工事など、完成までに時間を要することとなります。

再整備を進めていく上では、社会情勢や周辺環境、市民ニーズ等の変化に柔軟に対応する必要があるため、事業の進捗管理を適宜行い、魅力ある公園づくりに取り組んでいきます。



12 持続可能な社会基盤の実現

持続可能な開発目標 (SDGs)

国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴールから構成され、地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind) ことを誓っています。本再整備事業においても持続可能な社会基盤の実現に向け、取り組んでいきます。



グリーンインフラ

「グリーンインフラ」とは、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組です。本計画においても、CO2吸収源対策、生態系の保全、雨水の貯留・浸透等による防災・減災、健康でゆとりある生活空間の形成、SDGsに沿った環境と経済の好循環に資するまちづくりなど、様々な地域課題に対応しながら、緑地の保全や緑化の推進に取り組んでいきます。



